第8回奈良 ESD 連続セミナー

大西　浩明

◇日時：2026 年 11 月 10 日（火）19 時～21 時
◇方法：Zoom によるオンライン形式
◇参加者：30 名
◇内容：学習指導案の相互検討①

【ルーム１】　ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

1)矢野雄飛先生(滋賀県草津市立草津小学校）小学校6年　総合的な学習の時間
「あの日の草津、今の草津、未来の草津～記憶絵から未来へ～」

記憶絵（１９５４年作成）をもとに、７０年前と現在を比べる
・失われたもの　　昔から変わらないもの　　新しくできたもの
・変化したもの　その理由を調べる
　商店街がなくなっている
　草津川が出会い広場（いこいの広場）になっている
　子どもの遊び方　きもだめし　川遊び
・変わっていないもの
　学校の授業参観　地蔵盆
　地域の人々の思いを調査する（多様な年齢の人々への聞き取り調査）
　どういう思いでつくられたのか　　どういう思いで受け継いでいるのか
草津の昔からのよさ　‥‥　自分たちもつないでいきたい
まちづくり協議会との連携（６月アンケート）
　ウォーカブルな街にしていきたい
　人との出会いを大切にしたい
２０年後にどのようなまちになってほしいか　　未来のマップづくり
未来に対する提案　道幅、ベンチの設置
そのために自分たちがすること　伝える：まちづくりセンターで発表する

意見交流から

まちづくりにはソフト面とハード面がある。小学生がハード面でできることは少ないので、道幅の改良やベンチの設置といったハード面よりも、まちづくり協議会が目指しているウォーカブルな街を実現するうえで自分たちが参画できること、人との出会いを大切にするうえで小学生の役割について考え、行動化するほうがよいだろう。

2)尾関大応先生(滋賀県草津市立老上中学校）　中学校1年　総合的な学習の時間
「『老上中ESDプログラム』～草津の食文化『うばが餅』の魅力と未来を考える！～」

うばが餅について
戦国時代からつづく草津の食文化のひとつ
草津は、本陣が置かれていた。中山道と東海道の分岐点にあたる草津宿にあるお茶屋「うばがもちや」で、販売されている。防腐剤なし、保存料を使用していないため、賞味期限が短く直販のみ。

あずきの味付けや餅の粘り気など、季節によって変えているというこだわり。

「急がばまわれ」の浮世絵にも描かれている茶店

「うばが餅」を題材として、地域の歴史・文化・産業・観光とのつながりを探究し、地域資源の価値や持続可能な継承について考える学習を展開する。

うばがもち：知っているけれどよく知らない

なぜ、この大きさなんだろう？　なぜこの形なんだろう？　いつからこの形になったんだろう？

いつまでもこの形が続くのだろうか？

うばがもちを切り口に地域との関わりを調べる

意見交流から

ESD との関連に多くのものが羅列されている。単元終了後に獲得されるものもあると思われるが、指導者として力点を置きたいものを選択して記述するほうがよい。

草津市は人口が増えているが、利便性で移り住んだいる人がほとんどで、草津市の歴史や魅力を知る人は少ないだろう。草津は歴史が古く、人が住み続けてきた街。単に便利なだけじゃない。うばがもちから草津の歴史を深堀りできる。調べた成果は、校内だけでなく、草津市の市民に広く発信してほしい。地元メディアを利用するとよい。

知っているようで実はよく知らないものを切り口にしたことで、生徒たちに学習を進める上での共通の基盤ができる。授業中だけでなく、個人的に探求することも可能で、そこで知り得たことを全体に提供することで、本人も仲間も学びが深まる。

3)杉浦裕美先生(滋賀県草津市立老上中学校)　中学校3年 総合的な学習の時間

「老中生三方よし ～世間よし 琵琶湖よし みんなよし～ OSM プロジェクト」

「温泉の素プロジェクト」(OSM)：草津市の新たな魅力発信を目指す

OMS に関わることを通して、「琵琶湖の環境を守る活動」と「地域経済や観光を活性化する活動」を関連付けて捉える。また、単に知識を得るだけでなく、「草津市の良さを全国の人に伝えるにはどうすればよいか」という課題に対して、生徒自らが考え、話し合い、実践する探究的な学習を重視する。

・これまで取り組んできたヨシ学習や商品開発、販売活動を想起させ、草津市の魅力をまとめる。

・草津温泉や琵琶湖などの地域資源が、観光や地域活性化にどのようにつながっているか考えさせる。

・草津温泉の素開発の経緯を知る。群馬県の草津温泉と間違われることがある。温泉はないが草津はいいところだと伝えたいが、温泉がないことで伝わりにくい。　→　温泉の素をつくろう

・「自分たちが使いたい商品」ではなく、「お客様が使いたい商品」という視点をもたせる。

・観光客、子育て世代、高齢者、働く世代など具体的に考えさせる。

・草津市の魅力をつたえるパッケージをデザインする。

・販売時の POP や宣伝方法を考える。商品の魅力を伝えるキャッチコピーを考える。

意見交流から

・アクセサリーデザイナーや商工会議所と連携し、実際に商品開発できたのは素晴らしい。

・１１月２６日から販売されることが決まっている。生徒たちはこの学習を通して達成感を味わうことができたと思われる。

・学年の先生方が協力して単元を展開されたのも素晴らしい。「みんなよし」を体現している。

【ルーム２】　ファシリテーター：河野晋也（奈良教育大学）

1)冨樫智子先生(山形県立鶴岡中央高等学校)　　高校1年　科学と人間生活「自然景観と自然災害」

自然災害が比較的少ないとされている地域において、自然災害を扱うと共に、好きな自然景観に着目することで、リスクや恵みについて気づかせる。持続可能なまちづくりのための対策を考えるところでは、ハザードマップを分析するなどして、相互評価をさせる。このときのこどもの判断基準を明確に持たせることが必要。防災減災については、小中学校での学びの蓄積にどう構想していくかさらに検討していく。

2)中川純一先生(生駒市立俵口小学校)　小学校2年　生活科「おもちゃのえがおをまもり隊！」

おもちゃ病院や、もったいない市などを題材として、ひとつのものを大切に使う素地を養う単元を構想した。外部の講師とたくさん出合わせることで、ものを大切にする人々の思いに気づかせようとした。評価の基準が一般化されていると２年生の実態に沿わないこともあるのでより具体性をもたせること、また生活科では概念化を求めるよりも具体的な経験、気づきの広がりを重視していく方がよいとの意見が出た。子どもたちが、自分の持つおもちゃについてエピソードを説明させるなどすると、愛着がより湧いてくるのではないかという意見があった。

3)杉原孝治先生(神奈川県立有馬高等学校)

高校2年　総合的な探求の時間「SDGs を考えたビジネスモデルの創出」

１年時に取り組んだSDGsに関する探究を基盤に、ビジネスの視点を取り入れた解決策の構想を行う。ビジネスプランは、商品・サービスを提供するために必要な資金や人材、材料のほか、事業を継続するための収益の仕組みについても検討した。課題としては、先行研究のうすさ、また現実的な企画が出されているかといった点が挙げられる。外部講師を多く呼び、実社会でビジネスに携わる方の助言を取り入れた発表ができるようになった。

【ルーム３】　ファシリテーター：中村友弥（奈良市立朱雀小学校）

1)岡﨑美紀先生(滋賀県草津市立志津小学校）小学校6年　総合的な学習の時間

「未来に伝えたい志津遺産　～志津っこ体操でみんな元気！～」

・創立 150 周年を機に学校の歴史・伝統を見つめ直し、100 年後に残したい価値を「志津っこ体操」として全校・地域へ発信。
・立命館大学の学生団体（ESD コーディネーターの介在）と協働し、動作の専門的助言や動画撮影を通じた改善を実施。
・低学年・5 歳児・座席児童も参加できる運動を追求（公平性・世代間公正)。

意見交流から

・ラジオ体操のような親しみやすさと志津小の魅力（樹齢 100 年のクスノキやお城の跡地等）の結びつけ方。
・地域・学校の歴史や文化を 150 周年事業の中でどう扱い、志津小イズム・一体感・文化の礎として受け継ぐか。
・中学校区にある大学や ESD コーディネーターの存在が協働を加速させている点が注目された。

2)中村文子先生(奈良市立西大寺北小学校) 小学校6年 音楽科

「詩と音楽との関わりを味わい、歌で思いを伝えよう ～歌詞から平和について考える～」

・「花」「ふるさと」で詩と旋律・時系列の関わりを学び、平和合唱曲「青い空は」の表現工夫へつなげる教科横断的展開。
・修学旅行（広島平和記念公園）での合唱や寄せ書き掲示・平和学習発表会を通じ、メッセージを未来へ届ける。
・「未来に残したい大切なもの」を問い、歌詞の母音やフレーズに思いを込める合唱指導（世代内の公正・SDGs 目標 16)。

意見交流から

・音楽科としての目標（強弱・発声技能）を達成しつつ、社会・総合・修学旅行と連動した教科横断的展開が高評価。
・思春期や声変わりによる声の出しづらさに配慮した楽譜調整や机間指導等、自信を持たせる個別支援の工夫。
・「平和とは何か」を、歌詞を通して考え、自らのメッセージとして捉え直す具体像について活発に議論された。

【ルーム４】 ファシリテーター：菊池甲余子（姫路市立水上小学校）

1)吉岡真志先生(奈良学園小学校) 小学校6年 理科「てこのはたらき」

・定規などの身近なものを使った実験を通して、クリティカルシンキングを促す。
・塾に行っているこどもたちは、知識がふくらんでいる状況。もっと自分ごとに深められる内容にしている。
・終末は、てこの仕組みを使った生活に使えるものを考える。

意見交流から

・E SD の視点が難しい。幸福感だけなのか。 →便利さや生活に役に立つことで幸福感につながる。
・生活の困りごととは具体的な例を挙げるとすると？
→発明の工夫ができれば。自分だったらこんなものが欲しい
・クリティカルシンキングと終末をもっと繋げてみてもいいのでは？
→遊びや楽しむ感覚を持たせていきたい

2)谷口弦太先生(滋賀県草津市立老上西小学校)

小学校3年 総合的な学習の時間「老上西小学校区の安全について考えよう」

・町探検は事情により途中で切り上げることになったが、地域に詳しい地域の方と、「今と昔の地域」を比較する活動をした。また、地域の事故が多い場所なども交番の方から教えていただいている。家庭内でも→世代内の公正にあたるのではないか
・「10 周年」とかけて事故ゼロ（０)、安全ナンバーワン（１）とかけて活動を進めていく。
・子どもにとっての地域へのお願いはやはり「公園の遊具を増やしてほしい」など、自分たちのための要望が多く上がったため「地域のため」を意識して進めていきたい。
・子どもたちが「安全のために役立つ物」を作る、グリーンベルトや交流ベンチの拡大などを発信する場所を設ける。

意見交流から

・行政に働きかけるなかで、どこまで働きかけるのか？どこに働きかけるのか？
　→子どもたちの思いを行政に訴えかける。自分たちの思いを聞いてもらう
・行政の方たちに、お話をしていただいた方たちにも学習の成果を届けることも大切
・町探検の後の活動の方が印象的になっているように思う。町探検に行った意味を、安全マップを作ることで感じさせることが出来ると思う。また、校内の他児童への発表を経て行政に伝える流れもできるのでは？
・模型として町探検の成果を表現する。
　①住んでいる人が幸せに暮らせる街
　②訪ねてみたいと思ってもらえる街
　③何かやってみたいと思える街　　この３つを子どもたちに意識させる。
・何か物を作って人に渡すことで活動に意味を持たせる。
・次の１年生に何か成果物を渡すことで子どもたちの高学年に繋がる意識を育てることができるのでは？　　高学年にも何か働きかけができるのではないか？
・子どもたちそれぞれが輝けるゴールがあることで子どもたちのためになる。

【ルーム５】　ファシリテーター：大西浩明（奈良教育大学）

1)大畑翔平先生(滋賀県草津市立志津小学校）小学校6年　総合的な学習の時間

「志津っ子オリジナルソングを作ろう」

創立 150 周年を記念にオリジナルソングをつくる取組
校区におられる作家さんに記念の歌作成を依頼
　志津小の「いいところ」を歌詞に盛り込みたい　　子どもの多さ、けん玉
送られてきた歌詞Ａ案・Ｂ案をみんなで、自分の根拠をもって検討していく
３学期の「６年生を送る会」で完成した歌を披露する予定

意見交流から

・Ａかでしか選べないのか。Ａの「ここがいい」けどＢがいいという子どもなどいろいろいるのでは。
　→　まだまだ子どもの意見を入れて変更できる余地はある。
・メロディはついていない？　歌は詩とメロディがあって一つのもの。
　→　作家さんにはメロディはいったん待ってもらっている。
・「星つむぎの歌」は、2000 人ぐらいが協力して作っているので参考になるのでは。
　応援歌として作られているので、このオリジナルソングも小学校のみんなへの応援歌として歌い継いでもらえるようにしてほしい。
　どんな場面でこれから歌ってほしいかを、６年生みんなで考えていってほしい。

2)谷口晋吾先生(滋賀県草津市立老上中学校）中学校2年　総合的な学習の時間

「OBE　老上防災 Education　―防災に強い私たち―」

１年生では地域のハザードマップを作成し直し発表、配布
発災後どうするかを２年生で学習　　避難所生活について
大学生とともに避難所運営ゲームを実施　→　想定以上のことを考えておく必要があることを知る
　そこから探究の課題をつくって調査、体験活動を行っていく

校外学習では、避難所体験や被災された方からの聞き取りなどを実施の予定
３年生になっても防災について学ぶので、次年度につながるようにしたい

意見交流から

・探究の課題は一人一つ考えて持っているのか？　全体での探究テーマはあるのか？
→　各自が一つずつテーマをもって調べている途中。
・避難所では中学生の力が欠かせない。学校は発災後の基地になるので、こういう学びはとても重要。
・知識は持っていても、いざその場面ではできないことが多い。避難所運営ゲームを終末でもう一度やってみることで、できたこと・まだできないことがはっきりすればいいと思う。

3)長江昂大先生(大和郡山市立片桐西小学校) 小学校1年 生活科「つながる いのち だいけんきゅう」

アサガオとサツマイモを栽培する中で、命のつながりや自分自身の成長に気づく
それぞれの成長記録を比べながら、「似ているところ」「違うところ」を見つけていく
２学期になってサツマイモについてくわしく調べる活動を進めている
アサガオと違って「食べられる」「パワーがある」「野菜はすごい」ことに気づいている
「いのちがつながる」について考えさせたい
植物としての命のつながり、植物とその命をいただく自分の命のつながり、植物と昆虫のつながりなど、１年生なりに「命のつながり」を見つけてくれれば・・・難しいかも

意見交流から

・育てている過程でダメになってしまったものから「命」については考えられるのでは。
・自分の手で「命を育てている」だけでも、すごいことだと実感できればまずはいいのでは。
・「食べる」ことで命をつなげている私たちも含め、簡単な食物連鎖ゲームをしてもいい。
国語や道徳でこういう類の教材があればいい。
・生活科として、「自分の成長に気づく」ことは大切。そこに様々な多くの命がつながっていることがぼんやりとでも分かればよいのではないだろうか。